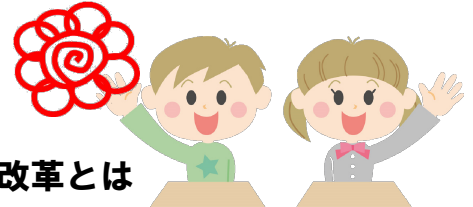


# 和地ひとみレポート No.228

佐賀県 武雄市の官民一体型小学校を視察  
賛否両論ある先進事例を見て思うこと・・・



## ■ “話題(?)” の武雄市

…1月31日、私が所属する市議会の「厚生文教委員会」は行政視察として佐賀県武雄市を訪れました。今回の行政視察のテーマは「教育改革：ICT 利活用教育の推進・『官民一体型』小学校の創設」。

…武雄市は人口約5万人、面積195.4 km<sup>2</sup>の佐賀県の西部に位置する自治体です。(ちなみに東大和市は人口約8万6000人、面積13.42 km<sup>2</sup>) この九州の自治体が話題になったのは、改革派市長と呼ばれた樋渡 啓祐(ひわたしけいすけ)氏が市長に就任してからです。樋渡氏は市民病院の民間移譲等、様々な新しい取り組みを行いました。大きく世間を賑わし武雄市の知名度を飛躍させた一つとして挙げられるのが、市立図書館のリニューアルの際に、レンタルチェーンTSUTAYAを展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)を指定管理者とした、いわゆる「ツタヤ図書館」をオープンした時。また、今回、東大和市議会厚生文教委員会で視察をした「教育改革」については、全国で初の取り組みとして2014年4月17日に文部科学省記者会見室で発表した「官民一体型学校の創設」も話題を呼んでいます。

…樋渡氏は民間業者を使う斬新な施策を実施し注目を集めていましたが、その手法は「独善的」「話題先行」などとして批判も受けていました。現在は、樋渡氏から後継指名された小松 政氏が市長となり、樋渡氏の進めた路線で行政運営を進めています。



【武雄市図書館。吹き抜けの2階建て。館内の書店とCD・DVDレンタル店、コーヒESHOP(スターバックス)はCCCが年間612万円の使用料を払って運営。テラス席もある建物は、代官山のTSUTAYA書店を参考に作られている。総投資額は約7億5千万円。うちカフェ・物販スペースの工事費はCCCが約3億円を投資。市は本体工事費に1億8200万円、CCCや他の業者への委託料2億6500万円を支出。(写真は武雄市図書館HPより)】

## ■武雄市の教育改革とは

…武雄市では「教育改革」の一環として、ICTを活用した教育「スマイル学習(武雄式反転授業)」と「官民一体型学校“武雄花まる学園”」に取り組んでいます。

スマイル学習＝佐賀県武雄市が東洋大学などと共同で取り組んでいるもの。武雄市内11のすべての小学校で、生徒3000人にタブレット端末を配布し、スマイル学習を展開。さらに2015年度からは、市内の中学生全員にタブレットを配布して中学校でも展開している。スマイル学習とは生徒がタブレット端末を自宅に持ち帰り、動画を活用した予習を行った上で授業に臨むもの。武雄市教育委員会(＝子ども教育部)には“スマイル学習課”もあり、効果の検証も実施)

…今回、視察をしたのは「官民一体型学校“武雄花まる学園”」の取り組み。これは、テレビ等でも取り上げられることの多い学習塾「花まる学習会」のノウハウを導入し、新しい教育手法を公立学校で取り入れるというもの。武雄市内には11の小学校がありますが、現在は5校が官民一体型学校を実施。その中の武雄市立若木小学校を訪問し、授業の様子を見学。その後、学校関係者や教育委員会(＝子ども教育部)の方が取り組みについての説明をしてくださり、質疑応答の時間も持ってくださいました。

## ■官民一体型・武雄花まる学園の目的

…武雄市は花まる学習会と2014年10月に官民一体型連携のため、10年間の協定を締結しています。その協定書に書かれているそれぞれの役割は以下の通りです。

### 武雄市の役割:

財政面の支援を行う。移住者への支援を行う。

### 武雄市教育委員会の役割:

学校の創設ならびに運営への支援を行う。花まる学習会との協議、調整を行う。

### 花まる学習会の役割:

学習指導方法の提供を行う。指導員の派遣を行う。

…武雄市の説明によれば「官民一体型」の学校では、「官」のシステムに「民」のノウハウや活力を融合させ、公教育のより一層の充実を図っていくとしています。そして、これからの社会を子どもたちが生き抜いていくために、たくましい個を確立するとともに、多様性を認め合い、お互いが学び合う教育への転換を図り、新しい未来を切り拓いていくとしています。この民間との提携を進めた当時の樋渡市長は花まる学習会が掲げる「『メシが食える大人に育てる』を理念とする点に同調」し、この施策のパートナーとして花まる学習会を選んだとしています。(裏面に続く)

## ■実際の授業は

…学校教育への花まる学習会のメソッドの導入方法については、週に4回、朝の15分間に「花まるタイム」という時間を設け、花まる学習会の教材を使って「音読（四字熟語、古典）」「立体・平面パズル」「基礎計算」「文章の書き写し」を行っているということです。それぞれの活動のねらいについては、

- ① 元気な声を出したり、たくさん手を動かし、頭を働かせたりすることでの「発散」をさせる。
- ② 「発散」させることで、頭を活性化させ、花まるタイム以降での学習に「集中」できるよう向かわせる。
- ③ 学校の通常授業以外での「基礎学力向上」の機会をより多く子ども達に与え「個」の力を高める。
- ④ たくさん認められるチャンス子ども達に与えることで「自己肯定感」を高めさせる。

とされています。それぞれの活動は3分程度でテンポよく進められ、結果については満点を求めるのではなく「昨日の自分に勝つ＝前回の自分の結果より良ければOK」となっており、教室中に「できた!」という大きな児童の声と「すごい!」という先生の元気な声がかたまっている状況でした。

…また、屋外での活動には学年縦割りのグループで、各1台ずつタブレットを持って、課題と合致した物を探し、撮影してきて発表しあうというものも。視察をした日の課題は「四角の中に丸が1つ、四角が10個以上」の物などが出され、児童たちは校庭や中庭でそのお題に合う物を協力して見つけ出し、写真に収めていました。これは、様々な角度から物を観察する力を養う活動とのことでした。

…ネットなどでは、公立小学校に民間のメソッドを取り入れることについて批判も多くみられていましたが、実際の授業の様子では、児童たちは集中力高く、目の前の問題を解くことに積極的に取り組んでいるという印象を受けました。

## ■気になっていたことについて質問

…この武雄市の取り組みを知った時、私の中に浮かんだ疑問がいくつかあったので、確認してみました。まず、「今回の官民一体型学校の取組は市民や学校から（教員から）すぐに受け入れられたのか」については、当初は理解されないこともあったが、今は、多くの市民から支持されているとのこと。学校の現場からは、やはり民間の物の導入については当初、反発もあったよう。市民から受け入れられるようになった要因の一つは「花まるタイム」の支援員として地域の人来てもらっていることが挙げられました。この時間には赤鉛筆を持った支援員の方が教室に入り、子ども達が解いた問題に花まるを付け、声掛けをしてあげており、実際の授業の現場を地域の人も知ることができるのが良い効果となっているようです。また、「花まる学園」となった学校では、保護者は全員支援員に登録。

年に3回は、各保護者が支援員として赤鉛筆を持って授業に参加することとなっているとのことでした。また、武雄市内の小学校全校で「花まる学園」に移行されていない状況については、市では平成32年度には全校が移行するとのこと。今までの移行の順番については、地域の協議会で準備が整った学校からとしており、今までは手挙げ方式で移行が進められているとのことでした。

…そして、一番気になったのが、費用面と花まる学習会のメソッドの漏えいなどについてです。今回の取組については花まる学習会の全面的な協力により、普通の学校にかかる予算に対し年間プラス380万円となっているものととのことでした。また、教材については各児童1000円を負担しているとのこと。費用についてはそれほど多額になっていないことが分かりました。また、メソッドの漏えいなどについては、特に花まる学習会から厳しく言われていないとのことでした。教員は佐賀県での採用なので、学園で指導した先生が他市に異動することは当然あります。そのあたりについての対応も、むしろ、参考にしてもらえれば良いという考えとの回答でした。

…また、武雄市には移住や定住促進、起業支援を担当している「お住もう課」という部署があり、この官民一体型学校に通学を希望する方の相談も受け付けているとのこと。基本的には、希望学校区に居住されれば通学可能なので、移住促進の一つの目玉としても考えているようです。実際に学校に通学することを理由に移住してきた人について確認したところ、武内小学校区では7世帯21人が移住したとのことでした。

## ■良いところからヒントを得る

…先に述べたように、武雄市の斬新な取り組みには賛否両論あるところ。公立の学校に民間の学習塾のメソッドを取り入れることに抵抗がある人がいるのもうなずけます。また、一企業との密な連携から、様々な疑惑が出てくることも、反対論の背景にあることは理解できます。ただ、純粋に「子ども達に様々な活動や体験をさせてあげたい」「力強く生きる力を身につけさせたい」という点から考えれば、この武雄市の取組みに反対する点はないのではないかと思います。また、視察した学校では給食の時間を5時間目とし、「食育の時間」と位置付けるという工夫も見られました。花まる学習塾のメソッドだけに頼っているのではなく「子どもに生きる力を身につけさせたい」という姿勢が感じられました。そして、この取組は武雄市内全校で統一的に行われる予定という点もポイントです。国で定められた学習指導要領は全国同じでも、住む自治体の取組で義務教育の9年間で得られることに違いが出るということが現実のものとなっていると実感した視察でした。東大和市で、武雄市とまったく同じ取組をする必要はありませんが、教育を充実させる姿勢など良い点にはヒントがあると思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思えます。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起カナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102